

第3回多治見市かわまちづくり協議会議事録

(要点筆記)

- 開催日時 令和3年11月2日(火) 午前10時00分から午前11時45分まで
- 開催場所 多治見市産業文化センター 5階大ホール
- 議 事
1. あいさつ
 2. 新委員の紹介
 3. 議題 (1) かわまちづくり計画策定に向けたニーズ把握調査
(WEBアンケート)等の結果について
(2) 土岐川の利活用に関する現状と課題について
(3) 目標と整備メニュー(案)について
 4. その他
- 会議の公開 多治見市情報公開条例(平成9年条例第22号)第23条の規定により公開
- 出席委員 山本 真行、水野 利之、水野 高明、小口 英二、若尾 茂希、
岩塚 慎二、加藤 敬次、飯田 道広、樫野 誠、竹原 雅文、
知原 賢治、長江 信行 (敬称略)
- 事務局 多治見市建設部道路河川課・経済部産業観光課
国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所調査課

発言者	発言内容
1. あいさつ	
多治見市建設部 渡辺課長	<p>新型コロナウイルス感染症が8～9月に拡大し、会議を中止せざるを得なかった。かわまちづくり計画については、予定どおり今年度中に策定し、来年度中には国土交通省へ登録申請したいと考えている。協議会のスケジュールとしては短い期間で議論を進めることになるが、協力をお願いしたい。</p> <p>また、9月議会にて社会実験の支援事業として、イベント支援や仮設トイレ等の費用を確保した。是非、社会実験の検討を進めていただきたい。</p>
庄内川河川事務所調査課 佐伯課長	<p>第2回協議会では現地視察を行い、現地のイメージを膨らませていただいた。今回は現状・課題を含め、目標を議論していただきたい。</p>
2. 新委員の紹介	
事務局	<p>本日欠席であるが、多治見菓子工業会会長の交替に伴い、委員が交代されたことを紹介する。</p>
3. 議題(1) かわまちづくり計画策定に向けたニーズ把握調査（WEBアンケート）等の結果について	
事務局	<p>(ニーズ把握調査について事務局から説明)</p>
委員	<p>アンケート結果については想定どおりという印象である。今後、整備するトイレ等の施設について、維持管理体制等も含めて検討していく必要があると感じた。</p>
委員	<p>満足度が高く、良い空間であることが再認識できた。散歩・通勤など生活での利用が中心であり、それをどう遊びにつなげていくか。良い環境に保つためには維持管理は課題となる。</p> <p>また、調査の自由意見については件数表示があると良い。</p>
委員	<p>土岐川の利用状況は予想どおりであった。散歩などに利用できるよう、かわまちづくりができると良い。施設整備後の維持管理については、しっかりと考えていく必要がある。</p>
委員	<p>国長橋～記念橋については散歩が多いのは、整備された結果なのだと思う。逆に記念橋～虎渓大橋までは整備されていないため、ニーズがあるのだと思う。現状では高齢者が2～3人で散策している姿を見かけるが、自然観察しながら歩くことができると良い。さらに虎渓用水の水源地や取水地までのルートに沿って小川を人工的に整備できると良い。</p>

	<p>トイレの整備については、既に修道院にきれいなトイレもあるため、そこへつながるようなルートの設定を考えると良い。</p>
委員	<p>調査結果では車利用が多いことが意外であった。車はどこに置いているのか。また、河川の出水時には、下流の手すりが毎回壊れる。このため、施設管理については考える必要がある。</p>
事務局	<p>アンケート調査ではどこに車を置いているかまでは把握していない。</p>
委員	<p>整備の方向性として、土岐川周辺に住んでいる市民を対象とするのか、市外からの観光客に向けて整備するのか。住んでいる人が魅力を感じる場所となることが基本だと思う。観光の視点では外から人を呼びたいが、バーベキューのゴミの問題等、課題も多い。</p> <p>また、自転車でアクセスできると良い。土岐川沿いから広域的な自転車利用についても検討できると良い。</p>
委員	<p>土岐川で釣り人の姿を見ることがあまりない。漁業協同組合では魚の放流をしているが、利用に結びついていない状況である。郡上市のアユパークのように、釣りの体験ができる場所があると、漁業協同組合としても活用ができる。</p>
委員	<p>平日に草刈りやゴミ拾いをやっている。川からの2分の1の範囲の水際は8月の豪雨により砂浜に大きな石が流れてきており、大きく姿を変えている。大雨で激変することを前提に整備する必要がある。</p> <p>多目的空間予定地で釣り人やうなぎの仕掛けをしている人を見かけることがある。下流から来ることができて、さらには修道院等につながるルートがあると良い。</p> <p>福祉施設の立場から言うと、河原側の利用者が多くなるとセキュリティの問題も心配となる。</p>
委員	<p>調査結果については想定どおりの印象であった。健康意識からウォーキングや犬の散歩などの利用が多いが、犬のフンやゴミの問題も気付きである。川に入ってもらうことは良いことだが、安全性についての課題が残る。</p> <p>また自転車の利用促進としてレンタサイクルとの連携ができると良い。市民を対象とすることを基本として、観光客はその結果として来てもらえたら良い。</p> <p>河原利用については、冠水することを想定した活用を検討す</p>

	ると良い。
委員	調査結果では、「周辺の観光スポット巡り」のニーズが25%ある。土岐川から距離を伸ばして、見てもらうことにつながるのではないかと。川沿いの散策路整備へのニーズもあり、オリベastreetとの連携も面白い。
副委員長	土岐川の散歩・ジョギングの様子を見てみると、右岸と左岸を周回している人が多い。行き止まりではなくつながりがあると良い。調査結果の自由意見に「水が汚染されていることを聞いたことがある」という意見がある。土岐川観察館では水質調査を実施しており、土岐川の水質は子どもが入っても大丈夫な数値となっている。きれいであることをもっと情報発信していくべきだと思う。
4. 議題(2) 土岐川の利活用に関する現状と課題について	
事務局	(土岐川の利活用に関する現状と課題について事務局から説明)
委員	観光の視点も重要だが、まずは市民が魅力を感じるかどうか重要である。市民のにぎわいが観光客へ波及されると良い。
委員	川は危険というのが先だってしまうが、土岐川観察館をはじめとする子どもたちの川とのふれあいや学びの活動を通じて、安全に利用していただきたい。
委員	現状と課題については事務局案のどおりである。ちょっとした大水が出ると地形が変わってしまうことから、冠水することを前提とした整備が必要である。
委員	我々の世代は川とともに育ってきているが、現代の子どもたちは川の危険を知らないことから、慌ててしまう。子どもだけではなく、親も川に来てもらい、安全性を知っていただくと良い。
委員	川を取組と中心市街地の取組は別ではなく、まちづくりとして一体である。まちに来る人が川にも行くことによって心の距離が近づくと良い。逆に川に来た人にまちなかに足を延ばしてもらい、人が行き来できるような環境ができるとエリアとして広がりができる。 川は汚いと思っている人も多いため、情報発信も含め知ってもらう必要がある。オイカワを食べる等、イベントや体験から学んでもらえると良い。
委員	商店街の空き店舗や建物の老朽化もみられるなどのマイナス

	<p>要素がある一方、空き店舗を活用した事例も見られることも触れてほしい。アニメーションやアウトドアのニーズよりも、最近新しい良質な店舗を目当てに来る人も増えてきている。現状分析を加え、どのようにかわづくりへつなげていくか検討してほしい。</p>
委員	<p>健康・福祉のまちづくりに関して、13区では秋にウォーキングイベントを実施している。現在は多治見北高校に集まって、修道院から永保寺を回って解散としているが、整備が進めばより活用が期待できる。現在も他地区の方が訪れてはいるが、13区以外からの地域での活用は、より増えるのではないかな。</p> <p>アニメーションとの連携や、歩く道にタイルを飾る等、特徴のあるまちづくりを進めてはどうか。</p>
委員	<p>多治見の歴史資源の活用として、遊歩道が整備されれば、連続性が出てくる。川と人との距離について、昔と大きく違うのは、子どもたちは川の遊び方を知らない。知らないままに川に入ることは非常に危険であるため、土岐川観察館の指導を始め、子どもたちに川を知ってもらう取組が重要である。また、水深が深い所もあるため、安全性を考慮した整備が必要である。</p> <p>最近、アニメーションによって多治見市が着目されている。こういった契機を活かして観光客を呼び込むような取組ができると良い。</p>
委員	<p>子どもたちに対してただ駄目、危険と言うのは違う。きちんとなぜ危ないのか、土岐川の特徴として一気に水位があがることや大雨も自然の恵みであること等を伝え、理解した上で、川とふれあうことが重要である。</p> <p>土岐川の両側に商店街があり、おしゃれな店も増えてきている。そのことが多治見の雰囲気をよくしているため、商店街と連携してつながりが出てくると、まちが広がっていくのではないかな。</p>
委員	<p>土岐川でうなぎが取れることや、仕掛けをつくって魚を採る人もいること等を友人からの口コミや協議会で初めて知ることが多い。メディアを通じた発信だけではなく、SNSなどの活用を含めて情報発信を強化した方が良い。</p>
副委員長	<p>東濃地方は子ども向けの川の事業が多い地域である。日頃、</p>

	<p>子どもだけで川に入っていけないと教えているが、大人と一緒にであれば川に入ってもいいと勧めている。多治見市では川にふれあう機会が多く、市内の小学校のうち13校中10校が地元の川を知る、川の生き物を知る等の学習を取り入れている。確かにかつては川に入らないことが学校の方針だったため、その期間の子どもたちはそういった印象になってしまっているかもしれないが、最近は変わってきている。</p>
<p>議題(3) 目標と整備メニュー(案)について</p>	
事務局	<p>(目標と整備メニュー(案)について事務局から説明)</p>
委員	<p>コンセプト案については良いと思う。整備メニューについては維持管理面の不安が残る。過去には国土交通省のパトロールで指摘され、バーベキューで散らかされたゴミを弊社が片付けるといったこともあった。</p>
委員	<p>コンセプト案は多治見市の日本一暑いイメージともつながり、ダジャレ感があり面白い。整備メニューについて、ターゲットを明確にすることや、運営のルールについても検討する必要がある。一過性のイベント的な取組ではなく、継続性のある平時のにぎわいづくりや収益事業として成り立つ仕組みを含めて検討すると良い。</p>
委員	<p>コンセプト案は多治見市のキーワードが含まれているため、良い。</p> <p>整備メニュー案については、維持管理や施設の運営を含めて議論する必要がある。この場所を活用して利益が出るような仕組みでないと継続性がない。下流の市民病院前のように、周辺福祉施設と地域住民の交流の場になると良い。</p> <p>多目的空間のゾーニングについては、冠水する場所であることを踏まえながら整備する必要がある。</p>
委員	<p>コンセプト案については良いと思う。回遊性を高める取組は非常に重要と思う。</p> <p>駐車場はどのくらい確保できるのか。多目的空間予定地の周辺道路が細いため地元として不安が残る。バーベキューのニーズは高いものの、後片付けを含めて利用上の規約づくりを行う必要がある。</p>
委員	<p>コンセプト案については水辺の楽しさ、親近感が伝わるキャッチフレーズで良い。</p>

	<p>特に多目的空間についてどういう運営手法となっていくのかは気になる所である。理想としては利用者が自ら準備して利用できる、自由に活用できる場所となると良い。まちの維持管理業務を請ける立場からみると、自然にも影響される場所であるため、日常的な清掃や使用料、備品等の維持管理は大変であると思う。</p>
委員	<p>水辺の涼しさには木や空の関係が重要と考える。多目的空間の整備メニューとして、木陰となる植樹を行うことが何よりもうれしく思う。</p>
委員	<p>コンセプト案の「Hot」と「くーる」の対比が良い。様々な利用ができるゾーンが整備されると市民の憩いの場となる。瑞浪市ではうなぎを放流しているが、多治見市では放流していない。多治見市でうなぎが捕れるということは、庄内川からうなぎが遡上しているのだと思う。ここでウナギが捕れるような場所となるよう、漁業協同組合も協力していきたい。</p>
委員	<p>コンセプト案も良い。またメニュー案として挙げている取組も可能性あるものとしては良い。現在、アダプト活動として掃除しているが、計画により管理運営の方法が整うことを期待している。</p>
委員	<p>コンセプト案は多治見のイメージとも重なり良い。</p> <p>多目的空間予定地の整備についても冠水頻度を考慮した整備内容で良い。ミズベリングの一環として民間で運営していける仕組みがとれることが望ましい。</p> <p>下流の市民病院を整備する際には、患者が川を見ることによって、回復に寄与できればという思いがあった。上流でも市民の健康福祉に寄与する視点や、周辺の大規模店との連携しながら、イベント等を仕掛けられると良い。</p> <p>また、多目的空間の入口は私有地を借用しているので、市として土地を取得し、導入路と駐車場の整備ができるが良い。</p>
委員	<p>コンセプト案は癒しとやすらぎを感じるホッとする場所となると良い。市民が自由に使える場所、いつも何かやっている場所となると良い。イベントの集客を考えると駐車場の確保が課題となる。</p>
副委員長	<p>コンセプト案は良い語呂だと思う。</p> <p>多目的空間において土岐川観察館での活用を想定すると川に</p>

	<p>近づけないため、どうやって学習に活用するかが課題である。8月の豪雨によって記念橋上流の今まで入れなかった場所にワンド※ができています。その年によって河川の形状が変わり、継続して使えない年が出るのが想定され、企画が難しい。広場ではある程度の広さが確保できるので活用はできると思うが、維持管理の課題は残る。</p> <p>※ ワンド：川の水が囲まれて池のようになっている地形のこと。</p>
事務局	<p>次回以降、多目的空間予定地のイメージパースなどを提示する。また、委員からのご指摘があった維持管理体制については、どういった母体でやっていくか、また協議会が主体となった維持管理体制についても検討をお願いしたい。</p> <p>現在のアダプト活動だけでなく、市民との協働によるクリーン作戦等の環境保全活動を展開する等、協議会においても維持管理を検討していく必要がある。</p>
5. その他	
事務局	(多目的空間での社会実験報告について説明)
副委員長	<p>例年、子ども釣り大会は多治見橋の浅瀬で実施している。今回の社会実験により、子どもが釣りをする場所として、流れが速く、砂地に足が沈み込む等、難しい場所であったことが分かった。</p> <p>次回は大人向けの企画として、社会実験を実施したい。</p>
事務局	(今後の予定について事務局から説明)
委員長	第3回多治見市かわまちづくり協議会を終了する。